

釣れ釣れなるままに

1992年思い出の釣行記 PART. 2

黄金の卵



鹿島釣狂

釣遊会第2回大会

☆開催日	平成4年5月17日		
☆開催場所	寿都港～本目港		
☆入釣場所	弁慶茶屋		
☆潮	満潮	05:27	25cm
	干潮	09:47	21cm
☆天候	晴天 べた風 無風		
☆釣果	ホッケ	360mm	6
	ハチガラ	285mm	1
	タナゴ	270mm	15
	重量	1870g	
☆成績	点数	817点	
	順位	14位	
	累計点	21点	(7⑭)

「北海道のつり」の資料等で当初は砂政泊平盤に乗る予定だったが、バスの中で吉井氏、前野氏から弁慶茶屋の平盤に誘われた。砂政泊平盤から軍艦岩への釣り場に未練はあったが、仲間がいた方が頼もしく励みにもなる。弁慶茶屋の看板でバスを降り、砂地の道路を茶屋に向かって下っていく。前回よりゴロやコマセを多くしたので、荷が重い。

吉井、佐々木氏はさらに奥に乗れる平盤があるとのことでそこへ向かった。前野、阿部氏は平盤左にある溝を狙うという。私は、自分の性癖からやはり平盤先端へと向かい、一人が乗れる低い出岬があったのでそこに入った。右隣の平盤には二人、左隣の平盤には一人の釣り人が入っていた。海底の様子はよく分からないのだが月夜のために海面から突き出た岩などははっきりと見える。50m前方にある大きな岩の右側に遠近投げ分け、右斜め前方にある小岩群の中にチョイ投げする。



間もなく、竿尻を持ち上げる鋭いアタリがあり竿に飛び付きリールを巻く。25cm以上

はある腹のデブプリしたハチガラである。黄金ムラゾイの名の如くオレンジの模様が美しい。腹に手を触れると黄金の卵がハラハラとこぼれ落ちた。これでボウズは免れたと朝方のホッケ釣りに備えて磯竿を準備する。暗い内は他にアタリもなく周りでも釣れている様子はない。べた凧過ぎるのだ。ポチャットもしない。前野氏が様子を見に来て、立派なハチガラだと称賛してくれる。

明るくなってからはウキ釣りでタナゴが釣れ出す。型も25cm前後で引きもよい。ホッケも釣れるのだが30cm前後とイマイチである。前野氏がアブラコ45cm程を釣ったが嫁がないと、投げ竿に私のウキを使って釣りはじめた。大変釣りづらそうだが足下の岩壁に貼り付いた貝を砕いてマキエにして何とかホッケ30cm強をゲットして準優勝を獲得した。

吉井、佐々木氏もやって来て海の様子を見ながら適確なアドバイスをしてくれる。

「昆布の根原に打ち込め」

「捨て糸が長すぎる」

「竿を立てて、強引に魚を浮かせて取り込め」

「そのためにも竿は30号を使え」

「棒オモリはとぐろを巻くようにせよ」

吉井氏は私の竿を奪い取り、「狙い場所はここだ」と仕掛けを振り込んでくれた。その後、遠投の竿に大きなアタリが出てリールを巻いていると大変な重量感である。遠くからその様子を見ていた佐々木氏が「竿を立てろ」と大声で叫ぶ。前野氏も近くに来て応援してくれる。しかし、左隣の人とオマツリしており、大アブラコではなくタナゴが見えたので強引に引っ張り道糸を切った。

